

2014年10月20日

博報堂と東京都市大学岡部研究室 『創造的生活者と市場経済』をテーマに共同研究を実施

“生活者主導のものづくり”を考える「FABエコノミープロジェクト」

株式会社博報堂と東京都市大学岡部研究室は、生活者主導のものづくりが市場経済にもたらす影響、生活の未来像を明らかにすることを目的に、研究プロジェクト「FABエコノミープロジェクト」を2014年8月に発足いたしました。このたび『創造的生活者と市場経済』をテーマに共同研究を行いましたので、内容の一部をご紹介します。

当調査は「パーソナル・ファブリケーション」ムーブメントをけん引する「創造的生活者」がどのような価値観に基づき、どのような行動をしているのか、インタビューリサーチを行っています。近年、3Dプリンターなど個人のアイデアをものづくりに昇華させる技術の浸透により、生活者自身がものづくりを推し進める「パーソナル・ファブリケーション」の概念が注目されています。これらは生活者に技術的な利便性をもたらすだけではなく、生活者のライフスタイルや、ビジネスにおけるプロトタイプ志向、ものづくりと流通／消費の関係など、生活者の未来に多様な影響をもたらす可能性を秘めています。調査では「創造的生活者」の姿を通じて「パーソナル・ファブリケーション」が将来的にどのような社会的・経済的インパクトをもたらすかをまとめています。

博報堂はこれまで社内組織「生活者主導ものづくりラボ」において当領域に関する調査や、ラピッド・プロトタイプング※の概念を実現する「プロトタイプングラボ」などの活動を2012年より行ってまいりました。今後も当領域における活動を一層、強化してまいります。

※【ラピッドプロトタイプング】精度にこだわらずに短期間でプロトタイプを作るプロトタイプ手法のこと。アイデアをスピーディーに形にすることで、早い段階で問題点を発見し改善・進化させていく「実験体質」のプロセスを指す。(Low fidelity, Early failure)

◆ 博報堂、東京都市大学岡部研究室「FABエコノミープロジェクト」概要

博報堂 構想ラボ生活者主導ものづくりラボ(リーダー：岩寄博論)

東京都市大学岡部研究室 岡部大介准教授、松浦李恵、大石紗織

◆ 「創造的生活者と市場経済」研究について

・概要

Fablab やメイカースペースの普及など、生活者主導のモノづくりムーブメントが顕在化する中、ムーブメントをけん引する「創造的生活者」の行動や意識についてインタビューリサーチを行う。

・インタビュー対象

自分の趣味に3Dプリンターを活用している生活者／IoTデバイスを開発し、ネット販売している生活者／Fablab でラボマスターを務める生活者／メイカースペースに通い起業を計画する生活者／企業・大学に所属しながら独自のプロダクトづくりをおこなう生活者／作ったプロダクトで企業とのコラボレーションを提案する生活者／自作アクセサリをオンライン販売する生活者など

・期間

2014年4月～2014年9月

◆「創造的生活者と市場経済」研究テーマ群

●創造的生活者の【生き方・働き方】の変化

- ・生活者主導のものづくりが一般化することによる「仕事と報酬」のあり方について
- ・「複業としてのものづくり」スタイルの確立、生活のための仕事／個人のための仕事

●生活者主導のものづくりが生み出す【経済圏】

- ・中規模生産・中規模流通における生産と消費の現場
- ・生活者同士の相互交流を前提とした消費、生産者と消費者の役割が交差する経済

●アイデアと技術のあり方

- ・アイデアがジャンルを横断、全く新しい組み合わせが生まれる「越境生産」
- ・技術のある人が技術を提供し、物語づくりが得意な人がストーリーテリングをする

●ものづくりのプロセス

- ・プロトタイプ的につくった製品をクイックに域内市場に出し、評価を交わす
- ・プロトタイプを生み出す実験の場としての売り場・マーケットプレイス
- ・ユーザーの創意工夫(=Hack)の余地がある「半製品の製品化」
- ・リペアを前提とした製品の登場

●教育・人材育成

- ・企業がテーマを持ち寄り、生活者が教鞭をとる課題解決型の学習空間
- ・プロジェクトベース・ワークショップベースの学習空間
- ・都市に学習の場が偏在、オープンに多様な人々がアクセスする空間

◆プロフィール

岩崎 博論(いわさき・ひろのり)

株式会社博報堂 コンサルティング局ストラテジックプランニングディレクター。博報堂において生活者発想によるビジネス機会創造プロジェクトをリードしている。専門は、エスノグラフィックリサーチ、新製品・サービス開発、ビジネスデザイン、ユーザー中心イノベーション、プロセスファシリテーションなど。近年は、生活者主導のものづくりが切り開く新たな機会に注目。FAB9（第9回世界ファブラボ会議）実行委員や、総務省情報通信政策研究所「『ファブ社会』の展望に関する検討会」の構成員も務めた。共著に『アイデアキャンパー創造する時代の働き方』（NTT出版）、『FABに何が可能か「つくりながら生きる」21世紀の野生の思考』（フィルムアート社）。

岡部 大介(おかべ・だいすけ)

東京都市大学 メディア情報学部准教授。横浜国立大学教育学研究科助手、慶應義塾大学政策・メディア研究科特別研究教員を経て、2009年着任。専門は認知科学。街やコミュニティを対象としたフィールドワークを通して、人々の社会文化的な活動の実態を研究するとともに、そこから得られた知見を活かした場のデザインに取り組んでいる。著書に、『Personal, Portable, Pedestrian』（共編著、MIT Press、2005年）、『ケータイのある風景』（共編著、北大路書房、2006年）、『Fandom Unbound: Otaku Culture in a Connected World』（共編著、Yale University Press、2012年）、『状況と活動の心理学』（共編著、新曜社、2012年）、『オタク的想像力のリミット』（共編著、筑摩書房、2014年）など。

【ご参考】「創造的生活者と市場経済」研究活動のご紹介について

株式会社博報堂と東京都市大学岡部研究室による研究プロジェクト「FABエコノミープロジェクト」は、企業・団体様向けに研究活動のご紹介を行ってまいります。また、当研究活動による知見を生かしたコンサルティング業務などのご依頼も受け付けております。

博報堂 HP「新規お取引に関するお問い合わせ」よりお申込みください。

※内容タイトル、件名に「FABエコノミープロジェクトお問い合わせ」とお書き添え下さい。

<https://www.hakuhodody-holdings.co.jp/support/hakuhodo/mailform/new.html>